

高階参院議員 後輩に講話

古川黎明高 「自分の人生デザインを」

古川黎明高(小川典昭校長)で21日、理系2年生の希望者23人からなる「アドバンスコース」の特別セミナーが行われた。同校の前身、旧古川女子高の卒業生で、看護師や保健師として各方面で働いた経験を持つ高階恵美子参院議員(加美町出身、比例区)が仕事や看護職などについて講話を行った。

理系2年生23人聴講



後輩たちを前に講話をする高階参院議員

今回の講話は、10月の同校創立100周年記念式典に出席した高階議員に小川校長が依頼。高階議員も快諾した。高階議員が後輩たちを前に講話するのは、厚生労働技官だった2005年2月に旧古川女子高衛生看護科の閉科記念式典以来で、参院議員となってからは初めて。同コース生徒のほか、看護・医療系への進路が決まっている3年生の希望者も聴講した。

高階議員は「自分の進路を考えたときに、堂々と社会貢献できる

生き方をしたいと思った」と看護師を志し、「最短コースでその道にたどり着けると考えた」と旧古女の衛生看護科へ入学したことを紹介。

また、「30歳くらいまでで良いので、一度自分の人生をデザインしてほしい」とアドバイス。看護師、宮城県保健師、大学や大学院への進学、大学教員、厚生労働技官、参院議員という自身のあゆみを念頭に「変化があったとき、自在に組み替え、デザインする感覚を持ってほしい。(就職後も)さまざまな展開があるので、あまり拘り定規に考えず、専門性と向き合ってもらえれば」などと語った。

生徒たちは、高階議員が中央アフリカ共和国のNGOに参加したきっかけ、参院議員になった経緯、患者との向き合い方などを質問し、高階議員も一つ一ついいねいに答えていた。ちょうどこの日が高階議員の誕生日だったことから、生徒は花束などを贈った。

看護師を目指しているという2年の五位渕桃香さん(16)は「一本ではなく、いろいろな道、未来があると分かり、励まされた感じがした」と話していた。